



平成30年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年11月7日

上場会社名 株式会社博展

上場取引所 東

コード番号 2173 URL <https://www.hakuten.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田口 徳久

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営本部長 (氏名) 田中 雅樹

TEL 03-6278-0010

四半期報告書提出予定日 平成29年11月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	4,891	23.0	107		106		59	
29年3月期第2四半期	3,977	6.7	245		250		184	

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 53百万円 (%) 29年3月期第2四半期 193百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	15.36	14.88
29年3月期第2四半期	48.26	

(注)平成29年3月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第2四半期	4,887	898	18.2	230.52
29年3月期	5,257	898	16.8	229.13

(参考)自己資本 30年3月期第2四半期 888百万円 29年3月期 883百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		0.00		14.00	14.00
30年3月期		0.00			
30年3月期(予想)				14.00	14.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,600	14.4	300		280		180		46.69

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(平成29年11月7日)公表いたしました「第2四半期(累計)業績予想と実績値の差異および通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期2Q	3,855,200 株	29年3月期	3,855,200 株
期末自己株式数	30年3月期2Q	株	29年3月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期2Q	3,855,200 株	29年3月期2Q	3,814,466 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

当社は、平成29年11月14日(火)にアナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で使用する決算補足資料につきましては、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
3. 補足情報	11
生産、受注及び販売の状況	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額	増減率 (%)
売上高	3,977	4,891	914	23.0
売上総利益 (%)	936 (23.6)	1,355 (27.7)	418	44.7
営業利益又は 営業損失(△) (%)	△245 (△6.2)	107 (2.2)	353	—
経常利益又は 経常損失(△) (%)	△250 (△6.3)	106 (2.2)	356	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益又は 親会社株主に帰属する 四半期純損失(△) (%)	△184 (△4.6)	59 (1.2)	243	—

(注) 売上総利益、営業利益又は営業損失、経常利益又は経常損失及び親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失の下段に記載している数値は、それぞれ売上高に対する割合を示しております。

当社グループの主要領域である広告・イベント業界においては、経済産業省「特定サービス産業動態統計調査(2017年10月18日発表)」によると、広告業のうちSP・PR・催事企画における売上高の実績は、4月から8月の累計実績が前年同期間比97.6%と減少しており、企業収益は増加傾向にあるものの、プロモーション活動への積極的な投資には至っていない状況にあります。

このような環境の中、当社グループは、中期ビジョンである「Be a PARTNER of EXPERIENCE MARKETING(経験価値提供型マーケティング・パートナーになる)」の実現に向け、Experienceマーケティングサービスの提供を通じて、クライアントから永続的に選ばれるマーケティング・パートナーへと進化すべく、市場領域の拡大とサービスの拡充に重点を置きながら各事業を推進してまいりました。

- ① 展示会、イベント等のリアル領域におけるマーケティングサービスにおいて、直接取引を主体としたワンストップ・ソリューションの強みを活かし、市場領域の拡大・サービスの拡充を図る。
- ② デジタル・コンテンツ&マーケティング分野の強化に取り組むとともに、リアル領域とデジタル領域との融合により、新たなサービス価値を創造する。
- ③ 収益性の改善を重要な経営課題と位置づけ、プロジェクト毎の利益確保に努めると共に、ローコスト・オペレーションによるコスト抑制を図る。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は、48億91百万円(前年同四半期比23.0%増)となりました。各商材カテゴリー別の売上高の状況は、次のとおりです。

(単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額	増減率 (%)
展示会出展	1,268	1,405	136	10.7
イベントプロモーション	411	798	386	93.9
商談会・プライベートショー	1,032	925	△106	△10.3
カンファレンス・セミナー	361	393	31	8.8
商環境	397	842	445	112.0
デジタル・コンテンツ&マーケティング	371	452	81	21.8
その他	133	73	△60	△44.9
売上高合計	3,977	4,891	914	23.0

売上高増加の要因としましては、展示会出展において、前期下期に行った営業活動量の増加を目的とした体制強化が奏功し受注件数が増加したこと、イベントプロモーションにおいて、ターゲット業界の明確化や、収益性の高い大型案件の受注に向けた積極的な営業活動に注力したことで案件単価が増加したこと、商環境において、協業パートナーとの連携強化を図ったことに加え、展示会等で取引のある既存顧客に対し商環境の提案活動を積極的に行い高単価案件の受注に至ったこと等によるものです。なお、商談会・プライベートショーは、前年同四半期比で減少しておりますが、収益性の観点から受注案件を選別したことによるものであり、商談会・プライベートショーの利益率は大幅に改善しております。

売上総利益は、13億55百万円(前年同四半期比44.7%増)、売上総利益率が27.7%(前年同四半期は23.6%)となりました。これは、前述の要因により売上高が増加したことに加え、プロジェクト毎の利益確保に注力すべく、採算性を重視した業務オペレーションを厳格に実行したこと等によるものです。

販売費及び一般管理費は、12億47百万円(前年同四半期比5.5%増)、販売費及び一般管理費率が25.5%(前年同四半期は29.7%)となりました。これは、前期にあった子会社株式取得に関する一時的な費用が当期において減少したこと、売上高の増加に対し、販売費及び一般管理費を前年並みの水準に維持すべく、コスト管理の徹底に取り組んだこと等によります。

この結果、営業利益は1億7百万円(前年同四半期は営業損失2億45百万円)、経常利益は1億6百万円(前年同四半期は経常損失2億50百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は59百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失1億84百万円)となりました。

当第2四半期連結累計期間における報告セグメントの業績は、次のとおりです。

a. リアルエクスペリエンス&コミュニケーション事業^{※1}

当第2四半期連結累計期間におけるリアルエクスペリエンス&コミュニケーション事業の売上高は、44億96百万円(前年同四半期比21.9%増)、セグメント利益は1億70百万円(前年同四半期はセグメント損失1億19百万円)となりました。

これは、前述に記載のとおり、売上高においては、商材別の事業戦略が奏功したこと、セグメント利益においては、プロジェクト毎の利益確保及びコスト管理の徹底による改善効果によるものです。

b. デジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業^{※2}

当第2四半期連結累計期間におけるデジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業の売上高は、4億62百万円(前年同四半期比32.2%増)、セグメント損失は24百万円(前年同四半期はセグメント損失68百万円)となりました。

これは、デジタル領域におけるグループ戦略の実現に向けて体制変更の実施と、顧客ニーズにマッチした商品開発を進めたことで先行投資が増加した一方、プロジェクト単位の利益管理の徹底により、収益性の改善が図れたことにより、前年同四半期比でセグメント損失が減少しました。

- ※1. 展示会・イベント等、人と人とが直接出会う“場”・“空間”において、様々な体験価値を通じて提供される製品・サービスの宣伝・販売活動を「Experience マーケティング」と位置付け、“コミュニケーション”に関わるあらゆる「表現」「手段」「環境」を最適化し“デザイン”することで、サービスを展開しております。
- ※2. インターネットを活用したビジネスモデルの策定から戦略的なWebサイト構築やアプリケーション制作をはじめとし、ビジネス向けアプリ制作・配信・管理プラットフォームやAI・コグニティブ領域、ロボティクスなど、最先端のデジタル・テクノロジーを集積し“デザイン”することでサービスを提供しています。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における財政状態は、資産合計48億87百万円(前連結会計年度末比7.0%減)、負債合計39億88百万円(前連結会計年度末比8.5%減)、純資産合計8億98百万円(前連結会計年度末比0.1%減)となりました。

(流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の残高は35億50百万円(前連結会計年度末比3億71百万円減少)となりました。これは、売掛金の回収が進んだことにより受取手形及び売掛金が前連結会計年度末比4億76百万円減少したことが主な要因となっております。

(固定資産)

当第2四半期連結会計期間末における固定資産の残高は13億37百万円(前連結会計年度末比1百万円増加)となりました。これは、新規投資等により無形固定資産が前連結会計年度末比12百万円増加したことが主な要因となっております。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の残高は29億99百万円(前連結会計年度末比23百万円増加)となりました。これは、買掛金が3億20百万円減少している一方で、短期的運転資金確保のための新規借入を行ったことにより、短期借入金が前連結会計年度末比2億10百万円増加したこと及び課税所得の増加により未払法人税等が前連結会計年度末比75百万円増加したことが主な要因となっております。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債の残高は9億89百万円(前連結会計年度末比3億93百万円減少)となりました。これは、約定返済が新規借入を上回ったことにより、長期借入金が前連結会計年度末比3億70百万円減少したことが主な要因となっております。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は8億98百万円(前連結会計年度末比0百万円減少)となりました。これは、剰余金の配当53百万円を行ったものの親会社株主に帰属する四半期純利益59百万円を計上したことにより利益剰余金が前連結会計年度末比5百万円増加した一方で、非支配株主持分が前連結会計年度末比5百万円減少したことが主な要因となっております。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ62百万円減少し、13億36百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は3億99百万円(前年同四半期は44百万円の使用)となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純利益1億6百万円、売上債権の減少額4億76百万円及び前受金の増加額93百万円が、たな卸資産の増加額2億7百万円及び仕入債務の減少額3億20百万円を上回ったこと等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は1億32百万円(前年同四半期は5億56百万円の使用)となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出32百万円及び無形固定資産の取得による支出1億1百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は3億29百万円(前年同四半期は8億4百万円の獲得)となりました。

これは主に、短期借入金の返済による支出3億90百万円及び長期借入金の返済による支出5億65百万円が、短期借入れによる収入6億円及び長期借入れによる収入1億円を上回ったこと等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、本日公表いたしました「第2四半期(累計)業績予想と実績値の差異および通期業績予想の修正に関するお知らせ」のとおりであります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,398,517	1,336,380
受取手形及び売掛金	2,158,303	1,681,728
製品	4,486	10,230
仕掛品	139,541	336,872
原材料及び貯蔵品	2,087	6,209
その他	221,052	182,753
貸倒引当金	△2,405	△3,994
流動資産合計	3,921,583	3,550,181
固定資産		
有形固定資産	230,381	224,020
無形固定資産		
のれん	257,245	224,377
その他	637,476	682,605
無形固定資産合計	894,721	906,982
投資その他の資産		
その他	212,269	207,418
貸倒引当金	△1,385	△1,253
投資その他の資産合計	210,884	206,165
固定資産合計	1,335,987	1,337,169
資産合計	5,257,571	4,887,350
負債の部		
流動負債		
買掛金	924,166	603,482
短期借入金	500,000	710,000
1年内返済予定の長期借入金	1,123,133	1,028,012
未払法人税等	490	76,085
賞与引当金	135,347	176,885
工事補償引当金	1,900	224
その他	290,644	404,626
流動負債合計	2,975,682	2,999,316
固定負債		
長期借入金	1,244,702	874,187
その他	138,490	115,343
固定負債合計	1,383,193	989,531
負債合計	4,358,875	3,988,847
純資産の部		
株主資本		
資本金	174,449	174,449
資本剰余金	289,331	289,331
利益剰余金	414,276	419,501
株主資本合計	878,057	883,282
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,279	5,433
その他の包括利益累計額合計	5,279	5,433
新株予約権	1,033	1,000
非支配株主持分	14,325	8,787
純資産合計	898,695	898,503
負債純資産合計	5,257,571	4,887,350

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	3,977,726	4,891,832
売上原価	3,041,121	3,536,695
売上総利益	936,605	1,355,136
販売費及び一般管理費	1,182,151	1,247,669
営業利益又は営業損失(△)	△245,546	107,466
営業外収益		
受取利息	3	3
受取配当金	123	147
物品売却益	172	3,979
貸倒引当金戻入額	1,795	—
雑収入	1,376	1,907
営業外収益合計	3,471	6,038
営業外費用		
支払利息	7,041	7,315
雑損失	1,182	0
営業外費用合計	8,224	7,315
経常利益又は経常損失(△)	△250,298	106,188
特別損失		
固定資産除却損	4,829	—
特別損失合計	4,829	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△255,128	106,188
法人税、住民税及び事業税	3,780	62,703
法人税等調整額	△65,000	△10,174
法人税等合計	△61,219	52,529
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△193,908	53,659
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△9,818	△5,537
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△184,090	59,197

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△193,908	53,659
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	539	153
その他の包括利益合計	539	153
四半期包括利益	△193,369	53,813
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△183,550	59,351
非支配株主に係る四半期包括利益	△9,818	△5,537

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△255,128	106,188
減価償却費	80,535	91,744
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,886	1,457
賞与引当金の増減額(△は減少)	△57,610	41,538
工事補償引当金の増減額(△は減少)	△3,856	△1,675
工事損失引当金の増減額(△は減少)	3,219	—
のれん償却額	41,736	32,867
受取利息及び受取配当金	△126	△151
固定資産除却損	4,829	—
物品売却益	△172	△3,979
支払利息	7,041	7,315
売上債権の増減額(△は増加)	520,656	476,575
たな卸資産の増減額(△は増加)	△11,826	△207,197
仕入債務の増減額(△は減少)	△175,043	△320,684
未払金の増減額(△は減少)	△16,936	△15,198
前払費用の増減額(△は増加)	△50,690	△21,950
未払費用の増減額(△は減少)	△3,701	18,439
前受金の増減額(△は減少)	29,024	93,770
未払消費税等の増減額(△は減少)	△43,661	4,534
その他	12,559	48,960
小計	78,960	352,552
利息及び配当金の受取額	126	151
利息の支払額	△7,351	△6,909
法人税等の支払額	△123,264	△606
法人税等の還付額	7,012	54,110
営業活動によるキャッシュ・フロー	△44,515	399,297
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△69,638	△32,995
有形固定資産の売却による収入	67	972
無形固定資産の取得による支出	△47,455	△101,953
投資有価証券の取得による支出	△209	△212
敷金及び保証金の差入による支出	△54,937	△302
敷金及び保証金の回収による収入	2,209	306
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△386,637	—
その他	△151	1,892
投資活動によるキャッシュ・フロー	△556,753	△132,292
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	—	600,000
短期借入金の返済による支出	—	△390,000
長期借入れによる収入	1,376,000	100,000
長期借入金の返済による支出	△499,619	△565,635
リース債務の返済による支出	△19,450	△19,911
配当金の支払額	△52,150	△53,594
財務活動によるキャッシュ・フロー	804,779	△329,141
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	203,510	△62,136
現金及び現金同等物の期首残高	1,461,109	1,398,517
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,664,619	1,336,380

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	リアルエクス ペリ エンス&コミュ ニケーション	デジタルエクス ペリ エンス&コミュ ニケーション	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,685,848	291,878	3,977,726	—	3,977,726
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,589	57,646	59,236	△59,236	—
計	3,687,438	349,525	4,036,963	△59,236	3,977,726
セグメント損失(△)	△119,376	△68,568	△187,945	△57,600	△245,546

(注) 1. セグメント損失の調整額△57,600千円は、のれんの償却額△41,736千円、セグメント間取引△15,864千円であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	リアルエクス ペリ エンス&コミュ ニケーション	デジタルエクス ペリ エンス&コミュ ニケーション	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,487,315	404,517	4,891,832	—	4,891,832
セグメント間の内部売上高又は振替高	8,823	57,672	66,496	△66,496	—
計	4,496,139	462,190	4,958,329	△66,496	4,891,832
セグメント利益又は損失(△)	170,523	△24,850	145,673	△38,206	107,466

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△38,206千円は、のれんの償却額△32,867千円、セグメント間取引△5,339千円であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 補足情報

生産、受注及び販売の状況

① 生産実績

当社グループは、企業や団体の広告活動・販促活動に伴う、情報伝達を目的とした各種イベント及びマーケティングツールの企画・制作・運営を主たる業務として行っており、生産実績を定義することが困難であるため、生産実績の記載はしていません。

② 受注状況

前第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

前第2四半期連結累計期間の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)			
	受注高(千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高(千円)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	3,554,252	94.2	1,961,935	98.7
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	418,095	103.7	338,395	136.9
合計	3,972,347	95.1	2,300,330	102.9

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

当第2四半期連結累計期間の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)			
	受注高(千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高(千円)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	5,392,465	151.7	3,196,026	162.9
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	289,947	69.3	214,548	63.4
合計	5,682,412	143.0	3,410,575	148.3

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

③ 販売実績

前第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

前第2四半期連結累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	3,685,848	106.4
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	291,878	110.0
合計(千円)	3,977,726	106.7

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

当第2四半期連結累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	4,487,315	121.7
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	404,517	138.6
合計(千円)	4,891,832	123.0

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。